

# [COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>  
E-mail:[comm.tko@nskk.org](mailto:comm.tko@nskk.org)  
PHONE:03-3433-0987  
FAX:03-3433-8678  
Diocese Office



第76号

(通巻1311号)

2026年4月5日

編集：広報委員会

委員長：藤井美佐子

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18

イースター ひと言メッセージ

ハレルヤ 主はよみがえられた！

主教 高橋 宏幸

主のご復活を感謝し、お祝い申し上げます。

世界中で起きている出来事に心痛め、不安を拭いきれない日々が続いています。

そのような中でも、復活のいのちに包まれていることを感謝し、恵みを力に前へ前へと導かれることを祈ります。

司祭 鈴木 裕二

イースター……

今こそ、墓の中でイエス様が起き上がり復活されたように、私たちも何かを始めるとき、生まれ変わったように新しいことを始めるときです。

私たちは、自然の光の中で、朝と昼、春夏秋冬を経験していますが、今こそ、明るい復活の光の中で、イエス様の復活を喜び祝います。

司祭 卓 志雄

神によって「新しい姿」でよみがえられた復活のキリス

司祭 田光 信幸

不確実性の時代にあっても、復活の主は私たちを「悲しみ(十字架)から、喜び(復活)へ」「死から命へ」と私たちを確実に命の道へと導きます。

主への信仰・愛・希望をもつて進みましょう！

主教 大畑 喜道

ハレルヤ いよいよ今年は新しい教区の船出の時です。東京教区も北関東教区も互いの良き伝統を受け継ぎ、新しい発見をし、互いに支え励まし合いながら、主の復活の希望と喜びを多くの人と分かち合うことができますように。

司祭 林 永寅

イースター、おめでとうございます。

死と闇の恐れから打ち勝ち復活なさったイエス様の力に頼り、東京教区のすべての方々が新たに生まれ変わら、恵みの人生を歩むことができますように、また東京教区と北関東教区が新



たに生まれ変わり、復興の元年となりますようにお祈りいたします。

司祭 須賀 義和

「あなたがたに平和があるように」力なく絶望していた弟子たちにイエスは語り掛けます。イエスの言葉を受けて私たちも立ち上がる力を受け続けていきます。平和を求め続けましょう。

司祭 マイケル・モイヤー

イエスは救いの業を成し遂げましたが、イエスの弟子たちが世界に出てその言葉と行いを伝えなければ、その救いは台無しになったでしょう。今、私たちはイエスが成し遂げてくださった救いの業を思い起こし、大いに祝おうではありませんか。だが、それ以上に大切なことは、世界に向かってイエスの言葉と行いを語り

伝えることなのです。

司祭 橋本 克也

おめでとうございます。人生はだれも絶望しなくてもいいんですね。

誰も、「死んでも生きる命」の希望に招かれているのですから!!

司祭 成 成鍾

変わることなく今年も復活の日を迎えました。キリストのご復活を祝い、私たち一人ひとりの復活を喜びます。変わりゆく世の中においても、変わらない価値を求めて信仰の旅を続ける教会に神様の祝福がありますように祈ります。

執事 福永 澄

日曜学校に集う子どもたちとご家族、洗礼堅信準備中の方々、洗礼の恵みに与る方、ミヤンマーから来られた信仰の仲間たち、そして教会の皆さんと迎える復活日。目白聖

公会は喜びに溢れます。お恵みに感謝です。

司祭 廣澤 敏明

祝 ご復活

『タリタクム 少女よ 起きて歩め

タリタクム 少女よ 自分の足で立て』

好きな聖歌です。復活とは、うずくまっっている者が、ひざを立て、起き上がることです。

司祭 荻原 充

「キリストは生きておられる」という復活の知らせは人生を造り変えます。私たちの信仰全体は、生けるキリストと共に歩むよろこびを日々の生活の場で証しすることにあります。改めて、そのことを心に留めたいと思います。

司祭 菅原 裕治

教会のすべての営みの基となるのが主イエス・キリストの復活です。この一点から過去、現在、未来における主なる神様のご意思を、理解することができます。今年もその

復活をお祝いできる恵みを感じたいと思います。

執事 日高 馨輔

祝 ご復活!

「草のめ 木のめが 目をさまし ぽっかり お顔 出しました」。教団こどもさん

びか87番にある様に、春の喜びと復活の命にあずかり、希望を持って歩みましょう。

司祭 金 大原

春の日照りが大地にうずもれた種の発芽を促すように、人々の内なる神性を目覚めさせるのは、光の子である私たちの使命です。陰湿で死に支配されているようなところに命の光と温かさをもたらすことができますように。

執事 中村 真希

不穏な世界にあって、改めて教会が社会に仕え、人々を励まし、「エンパワーメント」していくにはどうしたらいいのかなと考えます。主のご復活の喜びと希望を土台に、新しい時代を新しく進んでいけたらと願います。

司祭 佐々木 道人

47年前、子を亡くし虚ろだった時、ローカル線で乗り合わせたアイルランドから来た神父さんが私を見つめ言った。「このことだけは、覚えておきなさい。愛し合った者が、イエス様の前で会えるのですよ」この言葉が原点。

司祭 中川 英樹

キリスト復活、実に復活。神は、キリストの復活を通して、死と絶望が単なる終わりでないことを私たちに示されました。闇を越えて差し込むいのちの光は、今も私たちを立ち上げさせ、分断の中、和解へと向かう新しい歩みへと力強く押し出します。

司祭 西平 妙子

子ども礼拝で「キリストは、復活されました」「本当に主は復活されました」と挨拶します。本当には、イエスさまが、「まことに汝らに告ぐ」と言った言葉、「アーメン」です。恐れず、主と共に死と復活のご栄光にあずかるのです。

司祭 宮崎 光

「生かされている喜びを想っていたが、生かされな。ならば、永遠の命を信じてみるしかない」と、死を目の前にした父が力強く言ったのを思い出します。その希望の道を拓かれた主のご復活、ハレルヤ!

司祭 山口 千壽

かつて末期癌の若い母親から、「死んだらどうなるの」と問われた。「神よ、命の泉はあなたにあり、あなたの光に、私たちは光を見る」(詩36)と今なら応えよう。慰めとなれ、ハレルヤ!

司祭 中村 淳

主イエスさまのご復活をお祝いします。そして長いこと東京教区のニュースを伝え続けてこられた東京教区時報、教区ニュース、コミュニティを大切に思います。この神さまの道具が新たな教区となっても形を変えて用いられますように。



司祭 藤田 誠

イースターおめでとうございます。東京教区から東日本教区へ歩んでいますね。この歩みの真ん中には常にイエス・キリストがおられます。希望の内に歩んで参りましょう。

司祭 下条 裕章

主の死とよみがえりを通して神は世に赦しと救いを示し、信頼して従う人々に主は愛をもつてかえり行くべき将来の道筋を示されました。ハレルヤ。「完全な愛は、恐れを締め出します」愛の主と共に、私たちも歩んでゆきます。

司祭 塚田 重太郎

イースターおめでとうございます。

北関東教区と東京教区との合同教区の創設、東日本教区としての出発が、全体死を先延ばしするだけの延命措置とならないことを強く願います。

死の現実を見つめないところに、新たな命はないはずです。

司祭 大森 明彦

イースターの日付が確定したのは325年5月から6月にかけて開催されたニケーア公会議においてでした。その後1700回目のイースターが今年のイースターです。一人でも多くの方が復活者イエスと出会うことができますように！

執事 下条 知加子

球根の中に秘められた花が咲くように、すべての人の心は希望の香りに満たされ、よみがえりの命の喜びを歌います。イースターおめでとうございます。

執事 高柳 章江

イースターおめでとうございます。春の暖かさでゆるんだ体と心のすきまに、神さまの愛と恵みが満ち、すべての人々が喜びに満たされますように。



## 東京教区に勤務して

司祭 西平 妙子



東京教区の皆様、4年間お世話になりましたが、4月から沖縄教区に戻ります。東京教区に受け入れてくださり、大変お世話になりました。

この間、聖救主教会の牧師として、勤務いたしました。聖救主教会は、宣教の初めから地域のために仕える教会として、深川に建てられた歴史があります。

教会から始まった施設が多くあり、発展してきました。深川愛の園、善福寺愛の園、砧愛の園、まこと保育園、ライト学童クラブ、キッドスクール、又、深川えんみちという建物があります。施設のチャプレンとしての、働きも私の大きなお役目でした。子ども施設（まこと保育園、ライト学童クラブ、キッドスクール）では、毎週、子ども礼拝をおささげしています。子どもたちは、神さまがどういう方かよく知っています。それを、私に教えてくれました。本当に大きな恵みであり、驚きの連続でした。

愛の園への訪問は、コロナの影響もあって、お邪魔するのがはばかれる状況でした。2022年は、深川愛の園のデイサービス、善福寺愛の園、砧愛の園で、クリスマス会を行うのが精一杯でした。最初のクリスマスについてのお話と、クリスマスの聖歌を歌いました。次の年から、一緒に行ってください方も増えていきました。

2023年は、千住基督教会の管理牧師として、週に1回千住に行き、月に1回聖餐式をいたしました。小さな教会ですが、地域のためフードパントリーを行う、力を持った教会でした。教会信徒名簿を見ると、私が知っている方が何人かいました。千住で洗礼を受けた方が、他の地で信仰生活が続いているのです。教会は、目にみえる姿がすべてではないのでしょうか。この2年は、葛飾茨十字教会の管理牧師でした。葛飾茨十字教会の信徒の方は、自分の賜物を用いて喜びの中で奉仕していらっしゃいました。牧師補としての下条知加子執事の、細やかで丁寧な牧会が学びになりました。下条先生いつも助けてくださり、感謝します。

次の勤務地は「沖縄教区豊見城聖マルコ教会」です。この教会は、かつて信徒の仲間と一緒に建てた教会です。沖縄においでになる時は、是非お寄りください。

## 退職に寄せて

主教 大畑 喜道

神に召し出され、司祭となつてから四十余年。今年、定年を迎えることとなりました。



これまでの歩みの中で、どれほど多くの人と出会い、どれほど多くの祈りに支えられてきたことでしょう。ここまで過ごしてきたことができたのは、ひとえに皆様の祈りと出会いのおかげであり、心より深く感謝申し上げます。

中学生の頃に出会った恩師、そして中高生時代に毎夏参加していた福祉施設でのワークキャンプ、その中で、福祉の世界で広く知られる糸賀一雄先生の著作に触れ、「この子らを世の光に」という言葉に出会いました。この言葉は、今も私の心に深く刻まれています。また、司祭に叙任された折、先輩聖職者から「聖職は、砕けた魂をもたない」と務まらないよ」と励まされた言葉とともに、今日まで聖職者としての道を歩んでまいりました。振り返れば、神の前に自信をもって「あなたの召しに応じて十分に尽くしました」と言えるような日々ではありませんでした。それでも神は、私を用い、福音の喜びを

伝えるために遣わし続けてくださいました。

多くの方々の祈りに支えられ、主教に任じていただいたものの、体調を崩し、途中で退位することとなり、多くの方にご心配とご迷惑をおかけしました。期待に応えられなかったことを思うと、今も心が痛みます。しかし、これもまた神のご計画であったのだと思っています。休職期間中には、母、甥、そして妻を神の国へ送りました。多くの方々に支えられながら、三人それぞれに心残りなく寄り添うことができたことは、私にとって大きな恵みでした。その期間、「福音を語ることをやめてはならない。どんな場所でも、どんな状況でも語り続けなさい」という声を確かに聞きました。病床にある家族と心ゆくまで福音を分かち合い、また自宅近くに住む高齢の方と毎週祈りの時を共にすることができました。困難なとき、神はいつも誰かを遣わし、私を励ましてくださいました。

今、再び現場に復帰することを許され、聖餐を執行し、福音を語る日々が戻ってきました。心から喜び、感謝しています。定年退職とはなりましたが、囑託として、もうしばらくご奉仕を続けさせていただけます。皆様の祈りに支えられ、これからも

心身ともに健やかに、福音を語り続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。皆様、本当にありがとうございました。定年にあたり、神と皆様に心より感謝申し上げます。

司祭 上田 亜樹子



「退職に寄せて」というお題をいただいたが、そもそも終わった者が何をか言わんやである。もし、提供できる話題が昔話だけなら誌面の無駄ではないか。これからのことに言及するならば、それは余計なお世話ではないか。責任を負えないことを知りながらモノを言い、そして実行しないのは無責任ではないか。さてそうすると、何を書いたらいいのか、迷いはますます深まる。一方、退職後にはもう少し落ち着いた生活をするのだ！という願望について共有する道もあるかもしれない。しかし実際は、いったいどうしたら「もう少し落ち着く」のか、およそ準備も覚悟もできていない自分に気づくばかりである。

私が東京教区に移籍したのはたったの6年前。2020年までは、ハワイ教区から出向という身分のまま、17年間を主にチャプレンとして奉職した。日本聖公会での「牧師」体験は、月島

と神愛が初めてであり、しかも半分はコロナ禍で埋め尽くされた期間である。途中数年間は葛飾と浅草の管理牧師もさせていただいたが、そうなる毎週の教会委員会と礼拝はやり遂げて、ほとんどタッチ&ゴー。教会での本音や溜息を充分に聞くこともなく、さまざまの積み残しを蹴散らしながら駆け抜けたという事実が否めない。振り返ると冷や汗が出る。

ところで皆さんが「これからどうするの?」と心配して聞いてくださるが、わたしもあまりわかっていない。でも、何か新しく始めるよりは、まずは生活を整えたい。管理牧師の指導の元、引き続き月島に住み、囑託として教会のお手伝いをする。保育園のチャプレン及び理事長を続ける。昨年始めた霊的同伴者となるための研修を今年中に修了する。さまざまなりトリートプログラムを支える。蔵書の整理をする。休みがちだった運動を三日坊主にしない。食べたいものだけ食べる。

「川に小舟を出して魚釣りをする」ような、いにしえの聖職の境地からはほど遠いが、それでもイチ抜けするのを後ろめたく思う。それは、新教区立ち上げに向けて引き続き怒涛の中におられる信徒と現役牧師のご苦勞が忘れられないから。どうか頑張り過ぎないでほしい。

## 追悼 司祭 今井 丞治師

## 今井丞治司祭を偲んで

司祭 中村 淳

今井丞治司祭は1927年6月生まれ、1940年立教中学に進学後、1944年秋に海軍兵学校に進まりました。復員後立教大学から1954年聖公会神学院卒業後に練馬聖公会、立教高校勤務を経て東京聖十字教会に赴任されました。1957年英国聖オーガスチン神学校に留学、1959年帰国後も東京聖十字教会勤務を続けられました。私が今井先生にお会いしたのはこの留学前、今井先生が母と生まれたばかり



の私を訪問して下さった時である、だいぶ後に先生から伺いました。そして先生と同一年で聖十字教会所属の私の父は、母との結婚の時から先生との関わりが強かったようです。後年、父が病で急逝した時も葬儀での説教を今井先生がお引き受けくださいました。

先生は東京聖マリア教会名誉牧師としてコロナ禍に月一回メッセージを下さいました。その時の原稿から

も先生の「神の平和」「弱くされたものへのまなざし」「十字架のイエスさまとご復活のイエスさまの臨在」そして「神の愛」に信頼する態度のとても強いことを感じます。海軍兵学校にどうして進まれたのかの答えは「友のために自分の命を捨てることこれ以上に大きな愛はない」と信じてのことでしたが、そのためには敵を倒すことをしなければならぬのです」とあり、先生の強い痛みを感じます。先生は「私の義は神の義ではありません」とおっしゃいました。ご自分の体験からの人間理解とそこに基づく神さまのお話しは常に説得力がありわたしの信仰を導くものでした。

あの柔らかな響きのお声からのお話しに納得された方も多いでしょう。私たちはお声の向こう側に復活のイエスさまを垣間見ていたのかもしれない。私の人生の節目節目で共に居続けてくださった先生が、これからはわたしたちを見守ってください。神さまのもとで安らかに憩われますように。

## 「ハラスメント防止研修会」

## セーフチャーチの文化を育む

兼子 崇志

教会委員を対象にしたハラスメント防止研修会が2月7日、聖アンデレ教会・聖アンデレホールで開催された。主催は東京教区ハラスメント防止委員会、講師は「日本聖公会セーフチャーチ・ガイドライン」タスクチームで、管区ハラスメント防止・対策担当者の西原美香子さんが務めた。研修では「セーフチャーチ・始め方ガイド」などをを用いながら、セーフチャーチの基本的な考え方を共に学ぶ機会となった。



西原さんは「教会は祈りの場であると同時に公共の場。そのために安全性、説明責任などの社会的責務が求められている」と話し、セーフチャーチとは「教会全体で取り組む安全の文化づくり」であり、「キリスト教の原点に立ち帰る」ことであると説明。また、その実現のためには、指針となるべきガイドラインを策定する必要があると語った。

セーフチャーチの対象は教会の建物のみならず、その文化、礼拝、行事、教役者・奉仕者の行動基準、社会的弱者を保護するための施策など多岐

にわたると同時に、教会で指導的立場・権威ある立場にある者による、教会共同体のメンバーに対する虐待を防ぐことに焦点が当てられている。西原さんは「虐待(abuse)はハラスメントを超える概念であり、これを未然に防ぐために努力するのはアングリカン・コミュニオンの規範に適っている」と説明。また、セーフチャーチの最初のステップは「話し合い対話」であることを強調した。

研修では、参加者がグループ・ディスカッションを通じて、それぞれの教会・礼拝堂でできる取り組みを話し合った。西原さんは「暴力が蔓延する現代社会において、セーフチャーチは教会の使命、福音、隣人愛、他者の弱さを慈しむ文化を育てることを目指している」と総括した。なお、セーフチャーチ・ガイドラインの策定については、第17回全聖公会中央協議会が2019年に各管区に勧告し、日本聖公会は2021年にワーキンググループを組織。「日本聖公会セーフチャーチ・ガイドライン」が2026年の定期総会で決議されるように、現在準備を進めている。

(文責・広報委員会)

## 教会談話室

### 聖アンデレ教会

聖アンデレ教会礼拝堂前のヒマラヤスギを、安全面や管理負担を考慮し苦渋の末に伐採しました。寂しさが無いと言えは嘘になります。しかしヒマラヤスギがなくなり、飯倉交差点からは聖アンデレ教会の姿が、以前にも増してはつきりと見えるようになりました。今日の福音もまた、遮られることなく、よりまつすぐに、より明るく伝えていきたいと願っています。

### 聖オルバン教会

東京教区と北関東教区が一つになって東日本教区が誕生することは、再婚家庭が新たな生活を始めることに似ています。それぞれの家庭には独自の伝統や習慣がありました。今、彼らは共に新しい家族としてどうあるべきかを決めるために協力しなければなりません。新しいことの始まりには、未知なるものへの不安が伴います。

しかし一緒にいる事は互いへの愛をもつてなされる作業です。互いに耳を傾け、過去を尊重しつつ未来への選択を行う作業なのです。「からだは一つでも、多くの部分から成り、すべての部分が同じ働きをしているわけではない。同じように、私たちもキリストにあつて一つのからだをなし、それぞれが互いの部分となっているのです。」（ローマ12:4-5）

### 真光教会

松田 正人

大齋節から復活日への流れの中で、主の受難の日々を強く意識します。今年は1月に相次いで大事なお仲間を天に送りました。2週連続聖歌隊がアンセムでお別れることになろうとは。でも大丈夫、私たちは主のご受難と復活と昇天によって、彼らと私たちみんなの天国への道が取り結ばれたことを知っています。ハレルヤ

### 聖パウロ教会

久保 順哉

1月から「帰納的に聖書に学ぶ会」と題しローマの信徒への手紙を学んでいます。通常このような

会は最初に聖職者による当日箇所の解き明かしから始めることが多いと思いますが、当会では参加者がまず自身で読んでみての質問や心に留まったことを各自で出し合い、皆で分かち合うことでパウロの思いの神髄に近づく取り組みで、毎回豊かな時間を共有しています。

### 目白聖公会

主日の午後、ミヤンマーの方々

が礼拝を守っています。賑やかに聖歌を歌う若者たちの姿に、教会が政情不安の母国を離れ日本で働く人々の拠り所なのだと感じます。日曜学校に通うご家族と子どもが少しずつ増え、幼児洗礼もあり、再始動した学習支援活動もボランティアの力を得て定着しつつあります。今年は子どもたちの声が響く教会を目指します。

### 東京諸聖徒教会

渡邊 淳也

2月8日の主日礼拝は、久しぶりに積雪の日となりました。日曜学校の子どもたちは「寒い、寒い」と言いながらもどこか楽しそうに

学校が終わるや否や雪が積もった庭に駆け出してきました。高校生と小学生が混ざって雪合戦が始まると、雪国出身の大人も参戦。雪玉がぶつかる音と笑い声が礼拝堂にも聞こえてきました。

### 東京聖テモテ教会

横山 融

30年にわたり難病の子どもを抱えるご家族の滞在施設として、多くの皆様のご支援により活動してまいりました「ぶどうのいえ」は、昨年末で終了いたしました。今後の新たな活動につきましては、外濠教会グループ及び教会内で多くの話し合いが持たれ具体化に向けて進んでおりますので、さらなるご支援とご関心をお持ち下さるようお願いいたします。

### 神田キリスト教会 一之瀬 麻友美

大齋節には、継続して信施をお献げしているヒューマンシールド神戸と聖公会野宿者支援活動渋谷・ミニミニの活動報告、そして信徒二人の証しを聞くことが出来ました。

長い時を東京教区とともに歩ん

で、いよいよ来年10月11日には教会創立150年の記念礼拝・祝会を迎えます。新教区になっても変わらぬお交わりをよろしくお願いいたします。

### 月島聖公会

祝ご復活！「イエス・キリストの生き方にならない、月島で生活するなかまのひとりとして生きる喜び」といのちへの感謝を分かち合い、地域の祈りの家、心の拠りどころとなる教会を目指します」(HPより)。子どもフリースペース、ウエルカムサンデー、ほっこりご飯の開催、配食活動への会場提供など、地域とのつながりを大事に歩んでいます。

### 浅草聖ヨハネ教会

昨年12月21日聖餐式の中で、受洗者1名が与えられ、仲間が増え喜びです。

日曜給食活動は年間52回実施し、来会者の1回平均124名で前年比で約19%増加でした。多くの方々からのご支援に感謝しております。

・大斎研修は、2月22日(日)「葬儀のしおり」について…荻原司祭、3月8日(日)「信仰雑感」信徒によるお話

### 聖救主教会

聖救主教会のイースターは、「子どもとおとなの聖餐式」、愛餐会は中庭で「焼きそばパーティ」、また「たまご探しゲーム」が恒例となつています。今年はキッドスクール閉園となり、参加する子どもも少なくなつてしまいましたが、新たに信徒になられた仲間が増え、世代を超えてともに復活の喜びを分かち合える恵みに感謝しています。

### 神愛教会

鈴木 裕子

神愛教会は今年創立120周年。1906年、日露戦争が終わり不安と貧困の中、人々の祈りの場として伝道が始まりました。JRと京成線の日暮里が最寄駅ですが北の玄関・上野駅も徒歩圏内。空港へのアクセスも良いため昔ながらの下町「谷根千」にはツーリストが急増し、時の流れを感じます。

5年後の大きな変化に向け、信徒たちは礼拝を守りながら未来の姿を熟考しています。

### 葛飾茨十字教会

山口 千活

教会の日曜こども会を担当しています。こども会の礼拝の中では話をさせてもらっており、話の内容を考えることが私にとつて良い学びの機会になっています。イエス様の教えのエッセンスを伝えることを主眼にしていますが、できるだけ子ども達の身近な内容から繋げていきたいと考え、話しています。少しでも心に残ればと思います。これからも励みます。

### 聖ルカ礼拝堂

大斎節中の主日礼拝後約20分間のレント・オルガンプログラムを行いました。普段の礼拝では聴くことのない曲目を聴くことができました。聖ルカ礼拝堂は日々聖路加国際病院に来る患者さんや家族が祈る場です。新教区設立を経て、聖霊による人々への癒しが顕現し、さらなる宣教の場として用いられることを祈ります。ハレルヤ。

### 東京聖十字教会

加藤 忠郎

昨年、聖堂が登録有形文化財として登録されたことにより、聖堂建物に関心を持たれる方の教会訪問が増えており、10月には登録に協力頂いたNPOの方々や聖堂でハーブの記念コンサートも開催されました。また、金大原司祭デザインの教会絵はがきがピンバッジへと繋がり、宣教活動の一役を担っています。これからも、東日本教区の一教会として、地域の多くの方々に教会活動への関心を持つてもらえる開かれた教会でありたいと思います。

### 阿佐ヶ谷聖ペテロ教会

教会創立100周年を記念して記念誌「写真でみる阿佐ヶ谷聖ペテロ教会の百年」を発行することができました。教会の姿を水彩画で表紙の絵を描いてくださった方、写真を提供してくださった信徒の方々、7年間の編集作業にご尽力くださった委員の皆さまに感謝いたします。



たします。

### インマヌエル新生教会

12月21日（日）13時30分から「こどもクリスマス会」が行われました。当教会では初めての試みでしたが、日曜学校や近隣から30名の子どもたちが教会に集まりました。礼拝をささげ、ページェント、クリスマスにまつわるお話を聞いたり、文字探しゲームをしたり、ケーキ作りをしたりと、子どもたちの楽しそうな声が響き渡る半日となりました。日曜学校の関係者や食事係の方々が心を込めて準備してくださいました。

### 立教学院諸聖徒礼拝堂

南部 創祐

今年の大斎研修プログラムでは「私たちと共に、詩篇23編を手がかり

にして、4回にわたる学びの時を持ちました。大斎第1主日には、中川英樹チャプレンによるレクチャーが行われました。詩篇23編では、ダビデが自分一人だけでは生きていくことができない、誰かの支えによつて生かされている現実を悟り、神に心を向ける様子が読み取れました。神の見守りと恵みを感じながら、日々を大切に「生きたい」と心に留めました。

### 清瀬聖母教会

川村 登茂子

気軽に聖歌を楽しみたいと言うお声に応え、信徒有志で「聖歌を歌い隊」を始めました。普段は毎月1回礼拝後、クリスマスやイースター前はそれ以外にも、参加可能な範囲で皆で緩やかに集い練習中。コロナ禍もあり、今こうして皆さんと心合

わせて賛美出来る幸せを噛みしめています。今後は聖歌以外にもレパートリーを増やせたらと思っています。

### 八王子復活教会

新オルガンが導入されて半年。これを機に、コロナ禍以降聖餐式の中で歌わなくなっていたチャントを復活させようということになりました。主日聖餐式の応援奏楽者の今井俊道兄のご指導で、チャントの学びと練習が始まりました。神様への捧げものである聖餐式にチャントが加わり、言葉と音楽が織り成すより豊かな賛美と感謝の礼拝をめざします。

### 聖マルコ教会 高崎 健一

新教区設立と言ってもすぐ目に見えて何かが変わる訳でもなく、まだピンと来ない。ただ、これを機に各教会はより一層「自分の足で立つ」意識を持つよう求められるだろうし、そのための自分たちの教会の課題と向き合うチャンスにもなる。府中の地に根を張り、訪れる誰にとつても「元氣の出る教会」となれるよう、これからもたゆまず歩んでいきたい。

### 小金井聖公会

禁教令下の江戸時代に、

潜伏キリシタン達が密かに連絡し合うために、街や村の枝垂れ桜の下で伝言を交わした。それが発覚すれば死罪となる。その命を懸けた伝達の方法は、全国的に広まっていた。この方法で、毎年変わる復活日の月日も、命を懸けて伝達し合ったよ。今に生きる私たちも、主の復活の喜びの、伝達者なのである。

### 編集後記

東京教区時報第1号は、1924年3月に創刊されました。その後、1946年6月より毎月発行、1993年より2011年まで毎週発行。2012年より、教区内の交わりがより豊かになればと願う行事や催事等のお知らせ・報告記事などを中心とする「教区ニュース」の毎週メール発信と、読み物中心とした印刷物「コミュニティオン」の2通りに分けた発行形態に変更し、現在に至っております。教区再編に伴い、今回のイースター号（東京教区時報通巻1311号）を「コミュニティオン」最終号として、お届け致します。

今までの皆さまからのお支え、ご協力、そして、ご購入賜りましたことに、改めて感謝を申し上げます。

（東京教区広報委員会）

